

職員研修 報告書・レポート

令和 元年 1 2 月 2 8 日 (土)

氏名 ●● ●●

① 研修名： 「アセスメントを支援に活かすためのセミナー」

② 研修内容

心理検査の結果から支援方法を考える

TTAPとESPIDDのアセスメント

T-STEPによるトレーニングについて

③ 成果/感想

障がい特性・主訴と認知機能との関係の表がとてもわかりやすく活用しやすかったと感じた。WAIS-ⅢとⅣとの変更点についても説明があり勉強になった。下位検査に関して、障がいによって、高得点が出ることもあるが、実際の力が伴っていなかったり、障がいに応じて解釈していくことが必要である。また、生育歴・いじめ・不登校など幼少期からの背景を知っておくと良い。それぞれの下位検査の結果を比較していくと強み・弱みがわかったり、指標間での関係性からよりよいサポートを導き出すことができる。ただし、環境因子などにも左右されることもあるので、仮説→実施→評価していくことが大切だと考える。ここを理解しておくと、ナビゲーションブックに反映しやすくなり、企業側にもわかりやすく説明ができた、合理的配慮についての提案もしやすくなるのではないだろうか。

知能検査にはメリットも多くあるが、デメリットもある。TTAPやESPIDDは障がいにも配慮したツールであることがわかった。アセスメントは手段であって、評価ではない。マイナス面を抽出するのではなく、成長するかを見つけ出し、自閉症の人を理解することである。

T-STEPで使用されるBWAPは丸をつけるだけで15分でできるとのこと、労働習慣・対人・認知・作業パフォーマンスの4つの領域をみることができる。視覚支援、ソーシャルナラティブ、強化、ビデオモニタリング、認知行動の流れの中で、ビデオモニタリングが良いと感じた。

④ 今後の支援に活かすため、具体的に実行する行動：

アセスメントの見直し・共有

根拠に基づいた支援・評価

ナビゲーションブックに活かす

障がいに合ったツールを使う